

名古屋大学における通勤通学実態について

名古屋大学	正	河上	省吾
名古屋大学	正	青島	縮次郎
岐阜県	正	○野田	達男

1. 学内交通実態調査の内容と実施

(1) 調査の目的

学内の交通問題を考えるにあたり、学内の自動車交通と、駐車場の問題が大きくとりあげられる。それらは、学内空間の利用の面、歩行者の安全の面からも、考える必要があり、通勤通学における自動車利用の削減をも考えなければならなくなっている。本調査は、以上の問題を検討するために

- 学内構成員の通勤通学の状況および駐車需要をとらえること
- 東山キャンパス内における全構成員の終日の交通パターンをとらえること、
- 東山キャンパスにおいて重要な問題である、キャンパス内を貫通する四ッ谷通り^{*}の横断対策、交通向通等と、学内の道路に対する意見と意識をとらえること。^{*}市道牛巻東屋ノ坂線

等のために、企画したものである。

(2) 調査方法

- 調査方式： アンケート用紙の配布による被調査者記入方式
- 調査対象者： 全学構成員全員（ただし、各付属学校生徒、非常勤職員は除いた。）
- 配布、回収方法： 大学本部より各部局を通じて行った。
- 調査対象区域： 東山キャンパス、鶴舞キャンパス（分院を含む）
- 設計標本抽出： 100%

(3) アンケート調査書の設計

アンケート調査用紙は、B-3判両面印刷の上質紙1枚であり、設問項目は全部で11である。又これらの項目は以下の5つの部分に分けた。

- 回答者の所属、身分、住所、住居形態、通勤通学態様など
- 学内道路および四ッ谷通りに対する評価観（東山キャンパス在籍者のみ）
- 通勤通学の実態と交通手段選択の形態について
- 学内における1日の交通について、パーソントリップ調査、（東山キャンパス在籍者のみ）
- 本山駅、東山駅又は下宿からの徒歩経路について、（東山キャンパス在籍者のみ）

dは、朝、学内に足を踏み入れた地味から、その日最後にキャンパスを後にした地味迄を、調査書に掲載してある。地味番号を付したキャンパス図によって、起終地味、経過地味を記入させるものである。又eは、大学周辺の街路の使われ方、歩行環境を調べようとしたものである。1人の回答時間は大体、30分前後のみをみた。

(4) 調査の実施

調査の実施日は昭和48年11月27日（火）（雨天順延）とし、計画通り、27日（晴）におこなった。回収された調査書は、枚数チェック、検査、コーディングの後、カードパンチのための情報処理業者に託した。

(5). 回収率と拡大率

回収率と拡大率は以下で表わし、教職員、大学生等、学生、その他に分けて、学部別に計算した。

$$\text{回収率} = \text{回収数} / \text{左籍数} \quad \text{拡大率} = \text{左籍数} / \text{有効数}$$

全体の回収率、拡大率は、約40%、2.44倍であるが、一般に職員は約70%、1.45倍であるのに、学生は18.6%、5.38倍であり、とくに教養部学生は、25%、14.62倍であった。

る、通勤通学の実態

以下は東山キャンパスのみについて分析した。

(1). 居住地、階層の分布

ゾーン分割は、名古屋市内の千種区、昭和区、瑞穂区は、中京都市郡パーソントリップ調査のCゾーンに相当する分割、その他の区、および市町村は、Bゾーンに相当する分割をおこなった。

職員は、公務員宿舎のある千種区、昭和区の東部、その他、長久手東郷、瀬戸市に多く、学生は周辺に多くいる。又、職員、学生とも、市内に居住しているものは、60%強いる。

(2). 居住地別通勤通学手段

全体の59.3%がマストウ、15.4%が自動車、徒歩、2輪が25.4%であり、又自動車については、市内、市外とも15%である。居住地別に自動車が多いのは、市内周辺部であり、ドーナツ型に分布している。そのドーナツ型地域以外は、マストウが再び多くなっている。

(3). マストウ利用者の通勤通学実態

a. 居住地別、最寄りの駅(バス停)迄の平均所要時間

全体として、所要時間が20分を越えるものが、20%強となっている。又名古屋市内と市外を比べてみると、市内では、所要時間10分以上が皆無であるが、市外では、かなりのゾーンに、見うけられる。

b. 居住地別平均乗り換え回数

名古屋市内では、平均乗り換え回数が1回未満が多いのにくらべ、市外では、1回未満が皆無である。又、2回以上のゾーンが、岐阜県内に多く分布している。

c. 居住地別の車への転換率

全体として、818人、12.5%の人が、将来車を使いたいと答えであり、緑区、瑞穂区の1部、岡崎市等が将来、通勤通学に、車利用する可能性が強い地域となっている。

(4). 自動車利用の通勤通学者がマストウを利用した際の实態

a. 所要時間

30分以下が583人、33%となっている。

b. 最寄の駅(バス停)までの所要時間

マストウ利用者比べて、10分以内が86%に対し76%、30分以上は、22%に対し44%である。

c. 平均乗り換え回数

マストウ利用者比べて、「なし」が31.8%に対し22.6%、2回以上が5%に対し15.6%である。

d. 居住地別のマストウへの転換率

キャンパス周辺部が、24%以下と低い値になっているが、全体として、1071人、61.8%がマストウ利用に転換してよいとしている。